



平成 18 年 3 月 23 日

各 位

会社名 AOCホールディングス株式会社
代表者名 取締役社長 坂本 吉弘
(コード番号 5017 東証第一部)
問合せ先 IR・広報部長 関川 宏一
(TEL 03-5463-5065)

富士石油の第2流動接触分解装置(FCC)建設に関するお知らせ

当社は、本日開催された取締役会において、当社子会社である富士石油株式会社（本社：東京都品川区、取締役社長：関屋 文雄、資本金：102.25 億円）の袖ヶ浦製油所内において、下記概要のとおり、第2流動接触分解装置（FCC：Fluid Catalytic Cracking）を建設することを決定いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 建設の目的

今後、わが国の石油製品市場においては、需要構造の変化と製品需要の減少が見込まれており、特に、電力用を中心としたC重油の需要は長期的に漸減するものと予想されており、このような事業環境の変化に対応し、C重油の需要減退により余剰となる減圧軽油留分を高付加価値製品に転化することにより、収益力の一層の強化、安定化を図ることが袖ヶ浦製油所の課題でありました。

このたび、本課題に対処すべく、富士石油袖ヶ浦製油所において、減圧軽油留分を原料として高オクタン価ガソリン、石化原料のキシレン、ベンゼン、プロピレン等を増産するため、既設流動接触分解装置に加え、第2流動接触分解装置を新設し、現行処理能力18,000バレル/日を平成20年4月までに36,000バレル/日へ拡大し、同時に関連装置の増強を行うことといたしました。

2. 新設・増強設備の概要

建設予定地： 千葉県袖ヶ浦市北袖1番地 富士石油株式会社 袖ヶ浦製油所内

新設・増強設備： (1) 第2流動接触分解装置新設（処理能力18,000バレル/日）

(2) ガソリン脱硫装置増強（現行処理能力13,000バレル/日から21,000バレル/日へ拡大）

設備投資金額： 約300億円

運転開始時期： 平成20年4月（予定）

3. 業績への影響

今回の第2流動接触分解装置の新設等により、袖ヶ浦製油所は、ガソリン、石化原料等高付加価値製品の増産が可能となる一方、割高な輸入ナフサの購入量を大幅に削減することが可能となり、収益力の向上が見込まれます。さらに、袖ヶ浦製油所の高稼働率を維持するとともに、製品需要の変化に対応した柔軟な操業体制を確立することが可能となります。

装置の運転が開始される平成20年度以降の連結業績への具体的な影響については、今後、中期事業計画の見直し等を通じてお知らせいたします。

以上